



「SEX WAX」って、アレ用なの？

ビギナー・サーファーのための 88の「はてな」と「こたえ」

ビギナーにとって学ぶべきことはたくさんある。でも波や風など「ちんぷんかんぷん」なことは少なくないはず。ここでは「波はどうしてできるのか？」といった波のメカニズムや「パドリングで乳首がとれそうなんですけど」という、孫の手のおせっかい、など、ビギナーの知りたい「あれこれ」にお答えする。

撮影：青木隆司、三浦隆博、S・P・インストア、菅野桂介、川島孝典（01）
小笠原崇（02）

1999年7月の発売当初でも「はてな」の質問が「こたえ」の数を上回った。その質問の多くは「SEX WAX」の使い方や効果について。その答えは「SEX WAX」を作っている「ゾグズ・インダストリー」社の社長の名前だ。

「SEX WAX」は近代サーフィンとともに歩んできたエポック・メイキングなワックス。発売されたのは1968年頃とゾグズさんは言う。

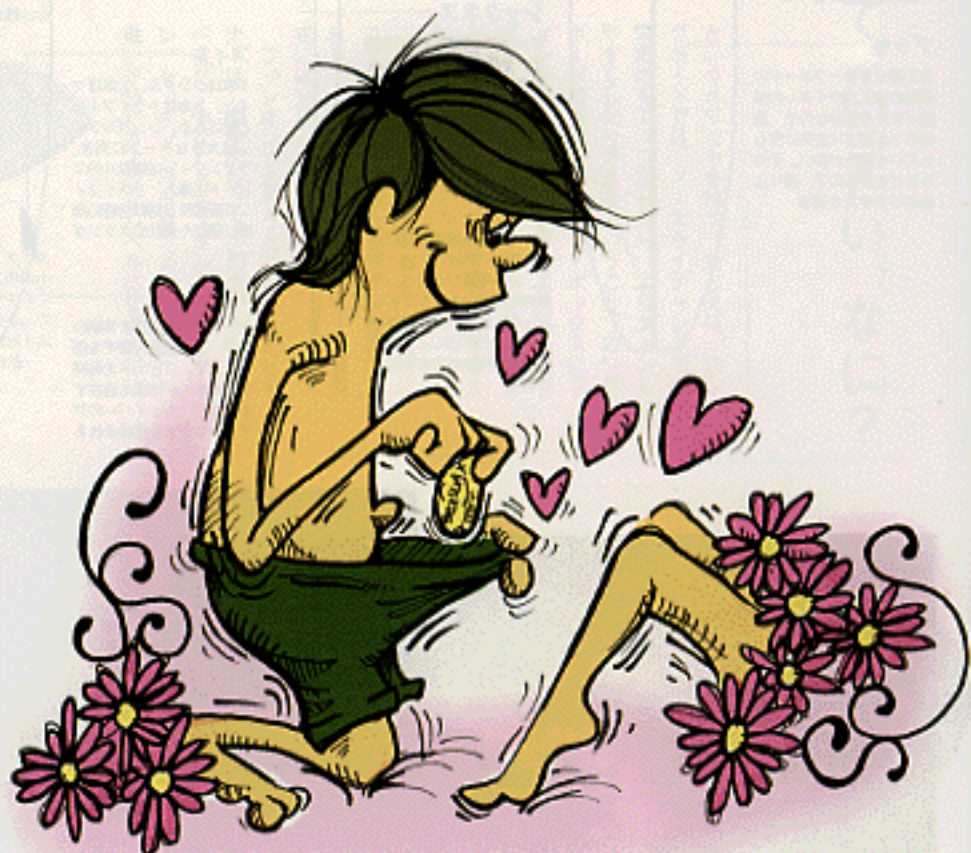
「サンタ・バーバラでZOGサーフボードというショップをやっていた。その頃はシェイパーだったんだけど、当時のお客さんに化学に詳しいナイト・スキナーという人がいてね、彼がこのワックスの製法を考案出したのさ。それが結構調子よかったんで、販売しようということになって名前を考えた。それで思い付いたのが「SEX WAX」。単なる思い付きさ。その頃のノリはアナキーだったことであって、これはインパクトがあるからいいでしょ、ってことであってんだ。ちよっとアブナイ感じもあるし。」

確かにインパクトはすごい。当時、やっぱり娯楽の一種だと思われて、手紙や電話で妙な問い合わせをたくさんもらいました。でもお陰さまでビジネスは倍、倍に伸びていった。1974年からはフルタイムでワックス業に専念して、今にいたっています。ハイ、ワックスの代名詞である「SEX WAX」はこうしてサーファーに浸透していったというわけだ。

「SEX WAX」には、香りのいい「クラシック・タイプ」と、ワックスを組み合わせることによって、グリップ力を高められる「クイックハンズ・シリーズ」がある。

「クイックハンズ」は、白濁色のやや粘り気のある半練りタイプ。これには、季節（海水浴）や使用方法を考えてのタイプが6種類ある。もちろん単体で使用できる（YELLOW LABELを除く）こともできるが、そのなかから2つを組み合わせて使用することで、よりグリップ力を高められるという。たとえば、その組み合わせの応用として、TROPICAL & WARMをベースコートにして、その上にCOOLやCOLDなどの柔らかいワックスをトップコートにすれば、

よりグリップのフィーリングが高められる。季節（水浴）に応じて表面に貼ってある使用方法の目安は、サイトでチェック。



6X

クイックハンズ・シリーズ、水温度で6種類ある。夏はレッドラベル単品、またはオレンジをトップコートし、ベースにブルーかレッドラベルを使う。グリーンラベルのトップにブルー、レッドを組み合わせたのもオーケー。真夏の組み合わせは別にある。¥210。クラシック・タイプもあり、香りはココナッツとミックスの2種類。ともに硬さは季節（水浴）に合わせて4種類がある。¥210
www.manueverline.co.jp/surf/sexwax



2X

1X



5X

3X



4X

夏の組み合わせ例



「コンテナ」はワックスをしめておくケース。「コム」付き1,029円

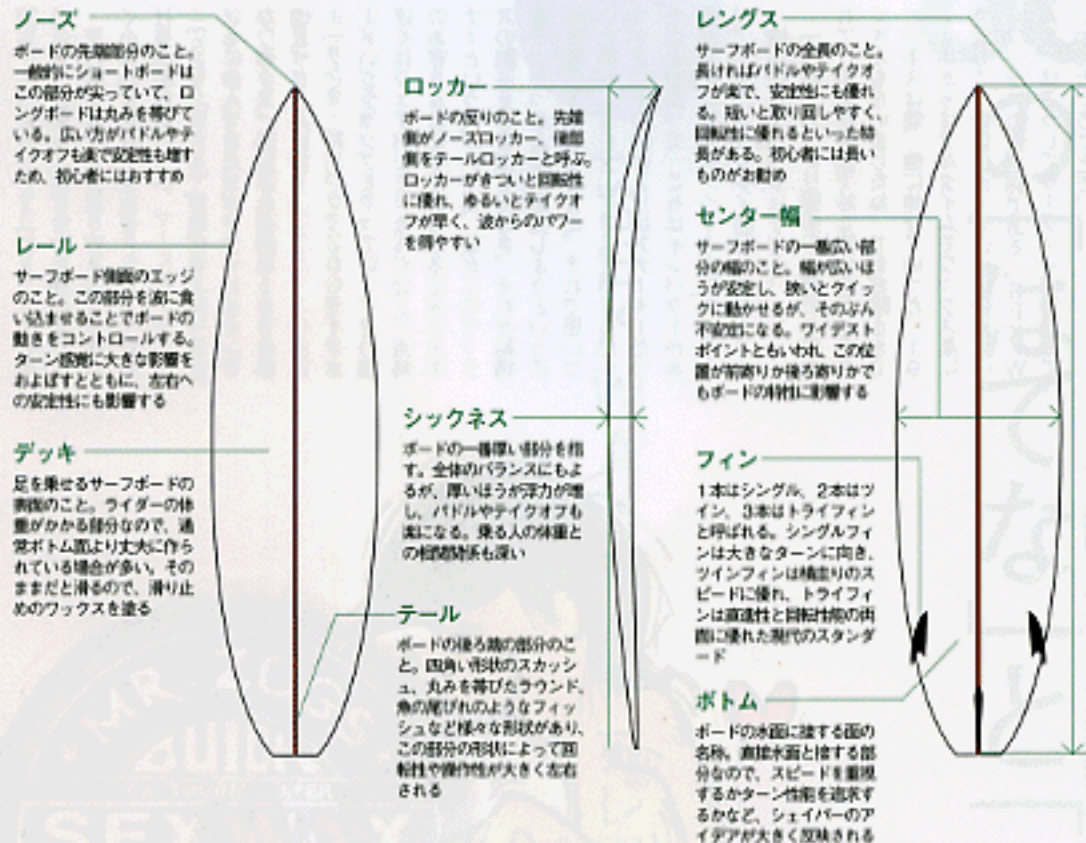


「コム」はワックスをはがす時に威力を発揮する。色は5種。315円



サーフボードの各部分って、 なんていうの？

ボードの各部分の名称と、その機能・役割について、
ショートボードで解説しよう。



フィンオンって、いったい、なに？

フィンがサーフボードのボトムと一体化しているのが固定式であるフィンオン(写真上)だ。フィンはボードの進む方向を決める重要なパーツ。ゆえにそのボードにあったフィンがシェイパーによってつけられている。しかしながら、フィンによって乗り味が大きく変わることから、近頃は「FCS(フィン・コントロール・システム/写真下)」などといったフィンを簡単に交換される着脱式が主流となっている。それはロングボードでもショートボードでも同じ。

フィンは大別すると、大きいタイプはライディング時の安定性を高め、小さいタイプは回転性を高めるといった性質を持つ。つまり、フィン・チェンジができるということとは、波のサイズやコンディションによってボードの性格を変えられる

というメリットを持つ。たとえば、ロングボードでは、ノーズライディングでの安定性をアップさせたり、よりターンしやすくしたりできるということ。ロングボードの着脱式はフィン・ボックスにフィンを差し込んで固定するものが多い。ボックスはフィンをスライドさせられるようになっていて、これで乗り味を変えられる。

また、フィンをはずせると、運搬時にフィンを折るといったトラブルも避けられる。そういったことからフィン着脱式にはメリットが少なくない。

フィンオンであらうとかならうとヒキナーは、標準的なフィンのボードを選ぶべきだ。少なくともスタンダードなフィン、セッティングで乗ったほうがいい。違いが分かるようなレベルになるまでは。



ボディサーフィンって、なに？

ボードを使わない、身体一つで波に乗るのがボディサーフィン。日本では馴染みが薄いですが、海外ではコンテストも開催されているし、ライフガードの訓練にも取り入れられているメジャーなマリンスポーツだ。ハワイ、ノースショアのバイブラインなど、ハードな波でやるボディサーファーも少なくない。

ボディサーフィンは、基本的に道具がいらないので、最も簡単に楽しめる波乗



©Hiroshi Suganuma

りといえる。とはいっても、コツを覚えないうとすぐにはできない。波をつかまえるタイミング、テイクオフまでのアプローチ、覚えることはいろいろある。

ボディサーフィンはサーファーにとっても必須の科目だ。理由は簡単。ボードを流した時、それが沖ならたつぷり泳いでボードを回収にいかねばならないが、ボディサーフィンで波に乗っていいれば、体力の消耗を防げるからだ。

日本において第一世代のサーファーたちはほとんどボディサーフィンができるはず。そう、昔のボードにはリーシユコ(流れ止め)がなかったから。みんな当たり前のように体得しているのだ。波に乗る感覚はサーフィンやボディボードと同じ。やってみると、かなり楽しいことが分かるはず。

道具はいらないと前述したが、足ひれやハンドボードを使えば、より楽しめる。足ひれはテイクオフをより楽にしてくれるし、ハンドボードも浮力やコントロール性を高めてくれる。

ボディサーフィンはひき連でも楽しめるスポーツ。まだ、体得していないのなら、波が小さい日には、これに専念するというのも手だ。ここでの経験が、ボードを流した時にいつか役立つ。



サーフィンって、なに？

サーフィンの達人、ジェリー・ロベスは「サーフィンは生きる力」と語っている。サーファーはサーフィンによって、海、そして大自然から生命の息吹、エネルギーをもらっているからなのだろう。

サーフィンは、運動理論上、「大自然」というスポーツ・フィールド(右図的空間で行う、バランスのスポーツ」と定義



Photo by Scott Aichner

義されている。サーフィンやスケートボード、ウインド・サーフィンなどは、バランスをとりながら技を繰り出し遊ぶもので、とても個人的なスポーツだ。たとえるならば、橋の欄干の上でバランスをとる、渡ることを目的とせず、川に落ちるか落ちないかというバランスをとることが目的だといえる。そのハラハラ・ドキドキ感のある個人的なスポーツを総称して、ニュー・バランス・スポーツと呼んでいる。

物理学的には、生物、それ自体もバランス、地球もバランスをとりながら生きる生命体だといえる。バランスを失ったものは死を意味する。難しいことはさておき、波の上を滑ることにによって味わう解放感、達成感、至福感、これらある種のエクスタシーは、生きていくことの喜びそのものだろう。

サーフィンはいつから? とかが発祥なのか? 残念ながら答えはまだ見つかっていない。先住インディアンがはじめたというペルー説、紀元前2000年ごろにはじまったというポリネシア説や、赤道付近の西アフリカ説など、さまざま。しかし、サーフィンがどこではじまったにせよ、はじめて波に乗った人間がいるということだけは確かだ。人類史上最初のサーファーは、きっと「イエーイー」と、歓喜の声を上げたはず。